

メモリアル大学（カナダ）

The Religions of the World

テスト時間：2時間

最終成績に占める割合：50%

テスト内容：一問一答問題×10、エッセイ×4（うち2問は事前に告知あり）

2時間ひたすら授業でインプットした内容をエッセイでアウトプットするのは非常に体力のいるテストでした。エッセイは、いくつか選択肢がある中から、自分で回答する問題を決めて記述する形式です。※期末レポートはなし

Introduction to Anthropology

テスト時間：90分

最終成績に占める割合：35%

テスト内容：4択問題×35、正誤問題×15

第二回目の中間テストから期末までの範囲を出題範囲とした選択問題のみの出題でした。

※期末レポートはなし

Introduction to Religious Ethics

テスト時間：2時間

最終成績に占める割合：40%

テスト内容：多肢選択や穴埋めなど×20、エッセイ×3

この授業のテストは、広い試験範囲をくまなく学習し、エッセイで書くことを事前に準備することが必要でした。エッセイの対策では、授業のスライドを見ながら、試験本番で記述したい内容を一度ノートに全てまとめ、暗記することで効果的に対策をすることができました。

期末レポート：最終成績の40%

倫理的問題に関連する社会課題について、授業で扱った倫理的枠組みを使いながら資料を用いて検証するという課題でした。最低分量はダブルスペースA4を6枚分だったものの、資料を5つ用いた上に複雑な問題を扱う課題であったため、最終的に約3000単語のレポートとなりました。教授からフィードバックもいただくことができ、ライティングの力を伸ばすことができました。

ゲーテ大学（ドイツ）

12月は半分ほどがセメスターブレイクだったため、授業は多くありませんでした。授業があるときには、PWHPという実際にフランクフルト内の職場を見に行くことができる授業で浄水所とドイツ中央銀行に見学に行きました。それぞれの見学先での速い英語の説明もだんだんとほぼ完全に理解できるようになってきており、職場の見学と同時に英語のリスニング力も鍛えられていることを感じています。

ウィンターバケーション中のクリスマスやニューイヤー以外には、今までの講義の振り返りをしました。各週の授業終わりにも復習はしていますが、今までの授業の流れを踏まえたうえで最初の授業内容を振り返ることでより理解を深めることができました。

その他に、ウィンターバケーション中はドイツ語の勉強に主に力を入れていました。ドイツ語に関しては留学開始前から続けている duolingo の一日当たりの時間を増やして、単語力や文法などの基礎をつける努力をしました。そして、クリスマスにはドイツ人の友達の家を招待してもらったので、そこで出来る限りドイツ語で会話する1日を作ってもらって、実際の会話の練習をしました。なかなか英語のように普通に会話することは難しかったですが、会話の中でどのような単語や表現を知らなくて会話できていないのかが分かり、今後の留學生活でどの分野を学習すればよいのかを明らかにすることができました。

長庚大学（台湾）

台湾への留学前から中国語の勉強をしていましたが、渡航してから感じたことは全然聞き取れないことです。自分から発信する分には知っている単語・文法を用いますが、相手が話す際にはもちろんまだ知らない単語も含まれていて、さらに話すスピードも非常に速いためその分一段と難易度が高く、リスニングが一番難しいと感じました。

この4か月の留學生活の中 devenir 中国語を使うことを意識して、台湾の友達には会話の中で分からない単語をそのたびに聞いて、単語量を増やしつつ会話以外でも教材や授業から積極的に学び続けました。その結果、最近顕著にリスニングの能力向上を感じます。台湾人の友達同士の会話を聞いて内容が大部分理解でき返答できたり、店員さんとのやり取りを一人だけでこなせたりしたときは、何物にも代えられない喜びを感じ、言語を学ぶ楽しさはまさにここにあるのだと再確認しました。

先日私のお気に入りの本の1冊である「星の王子様」の中国語版を見つけたため、単語や会話表現の勉強になると思い購入しました。最低1日3ページを目標に友達に発音や単語の使い方などを尋ねながら勉強しています。関連する単語も一緒に聞くことでより効果的に学べるように頑張っています。友人からは最近の私の中国語の吸収スピードが速すぎて怖いと言われました。冬休みに1か月ほど日本へ帰国しますが、中国語の学習は継続し台湾に戻った際に友人を驚かせられるほどの実力をつけたいです。

キール大学（イギリス）

所属している空手SocietyではWinter Schoolというイギリス全国から空手を習っている人が集まり3日間合同で練習するイベントがありました。たまたまキール大学で開催されたので遠征する必要もなく参加できました。大学生や社会人の初心者から黒帯まで様々なレベルの人と交流することができました。



また、空手Societyでは定期的にsocialも開催されるため練習以外でも現地の学生と交流する機会があります。最近では、ボウリングや大学内にあるパブでのsocialがありました。